

# 教育委員会からのお知らせ

合川小学校区 令和3年1月発行

鈴鹿市教育委員会事務局 教育政策課  
☎059-382-9112 ☎059-383-7878  
✉kyoikuseisaku@city.suzuka.lg.jp

令和2年10月29日(木)、第2回合川小学校の今後のありかた検討会議を開催しました。

「将来の子どもたちの教育環境としてどのような学校がよいと思うか」という視点で、委員の皆様で意見交換を行いました。

## 協議をする上で大切にしていること

あり方検討会議では「将来の子どもたちにとってどのような教育環境が適しているのか」という視点を大切に協議を行っています。「将来の子どもたちの教育環境」を考えた時、「複式学級」という教育環境はやはり大きな課題です。課題が大きいからこそ、学校規模適正化を地域・保護者の方たちと一緒に考えていきたいと思っています。



## 会議でのおもな意見



◇140年以上の歴史を持つ合川小学校に存続の可能性が1%でもあるのなら、その方向を探ってみたらどうか。

◇4、5年前の天栄中学校区運営協議会ではこの中学校区を「幼小中一貫」として取り組んでいくという話で聞いていたが、鈴鹿市は「小中連携」という方向で進めていると解釈させてもらった。

◇昨年アンケートを取られていると思うが、どのような立場の人が答えたかで、大分数字が変わると思う。やっぱり、一番関心を持っていただきたいのは、3、4歳位から中学年の方の保護者だ。

◇子どもの将来を考えた時に、この小学校を存続させて、なおかつ同じような学力を育てるような方策を考えていくか。それとも統合の方に向かってそこで他の子ども達と一緒に学ばせるか。非常に難しい選択。

◇兄弟・姉妹3人が最低いるのが当たり前で、長男は親と住む、これは田舎だったら当たり前の時代が50年ぐらい前にあった。今現在は、核家族化とか子ども1人とか、すごく環境が変わってきている。また、息子さんが結婚されて家を建てられたと聞いたら、別の地域に建てている。「大学は県外へいった」「県外で就職した」と聞く。そのような中で児童が減ってきているというのは、当たり前の現象である。

◇自分も育ってきた合川小は、人数も少なく、どの学年の子たちもわかる、子ども達のふれあう良い学校だと思う。ただ、これから先、この先だんだん児童数が少なくなる合川小を卒業し、他の小学校からたくさんみえる中学校に行くとなると、子どもにとってはどうなのかと思う。

◇できたら特認を継続させてもらいたい。ただ、複式になると、先生方もたいへんなので、1学年を継続できるような努力の仕方を考えていかないと、とは思っている。

◇合川に住みたいと希望しても家を建てることに制限があるので、合川の人口、子どもの数は増えていかない。そういうところから変わらないかと言われた。

◇確かに市街化調整区域のせいで家が建ちにくいというバリアはあるが、仮にそれがなかったとしたら、本当に家が増えるのか。今、住んでいた兄弟は元からここに家を建てられるのに、なぜ地区外に家を建てるのか。その人がまず留まって、調整地区が外れて、他所から来た、これで初めて「増えて」いくわけだ。減っているほうが多いのだから…。便利な方へ行く。これが現実だ。



児童生徒数の20年推計や「学校規模適正化・適正配置に関する基本方針」など、学校規模適正化に関するいろいろな情報を教育委員会ホームページに掲載しています。スマートフォンからは、右のQRコードを読み込み、アクセスしてください。

